

一般社団法人 日本非破壊検査協会  
平成25年度事業計画

## 1. 平成25年度(第70回)定時社員総会

日時：平成25年6月4日(火) 14:00~16:30

会場：アルカディア市ヶ谷

議案：

- (1)平成24年度決算報告に関する件
- (2)名誉会員の推薦に関する件
- (3)平成25・26年度役員を選任に関する件

報告：

- (1)平成24年度事業報告に関する件
- (2)平成24年度監査報告に関する件
- (3)平成25年度事業計画に関する件
- (4)平成25年度予算に関する件
- (5)公益目的支出計画実施報告書に関する件

## 2. 役員会

### 2.1 理事会

定款の定めに従い、協会の運営に関わる諸案件の審議・決議を行うために、年4回以上の通常理事会を開催する。

### 2.2 運営委員会

理事会の円滑な運営を図るとともに、重要かつ緊急を要する課題の検討を行うために理事会日程に合わせ、適宜開催する。

### 3. 将来構想委員会

協会の運営に関わる全体戦略の検討、及び中長期運営全体戦略の企画立案を行う。

### 4. 選挙管理委員会

平成26・27年度代議員及び役員(理事・監事)選挙を実施する。

### 5. 安全衛生管理委員会

講習会、資格試験等の準備・実施時における受講者、受験者及び主催者の健康と安全を保てる環境を整備・確保し、事故・災害の未然防止に努める。

## 6. 学術活動

非破壊検査技術全般の進歩発展及び社会貢献を基本理念に掲げ、学術活動の活性化(研究の推進)、会員のための学術活動の推進及び社会への情報発信を基本方針とし、次の活動を行う。

### 6.1 学術委員会

- (1)学術活動全般を総括し、年間行事予定の調整を行う。
- (2)学術活動の円滑な推進を行なうために、学術行事の見直しを検討する。
- (3)充実した講演大会の開催を目的として、オーガナイズドセッションを計画する。
- (4)学術の発展と普及を図るため、学術活動に関するHPを充実させる。

### 6.2 部門

#### 6.2.1 放射線部門

放射線による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の各研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)中性子イメージング研究委員会

国内の中性子イメージング研究者間の情報交流を促し、もって中性子イメージングの非破壊検査への適用を推進する。

#### 6.2.2 超音波部門

超音波による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の各研究委員会で具体的な活

動を行う。

##### (1)超音波用語研究委員会

超音波に関連する用語に関して、標準化に向けて整理し、用語の普及を行う。

##### (2)超音波試験機器研究委員会

超音波探傷機器の普及と技術的な理解の推進に必要な標準化や特性評価等の調査研究を行う。

##### (3)接合部の超音波探傷研究委員会

鋼溶接部をはじめとするあらゆる材料の接合部を対象とした超音波探傷に関する研究を行う。

##### (4)フェーズドアレイ超音波探傷研究委員会

フェーズドアレイ超音波探傷が抱えるハードウェア及びソフトウェアに関する課題を中長期的視点から見出し、その解決にあたる。

#### 6.2.3 磁粉・浸透・目視部門

磁粉、浸透及び目視による試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)磁粉探傷研究委員会

磁粉探傷試験の各磁化状況における標準試験片の特性評価、特にコイル法及び残留法の現象解明を行う。

##### (2)浸透探傷研究委員会

JIS Z2343-2に規定されている基準探傷剤と国内の基準探傷剤の同等性確認試験を行い、国内における基準探傷剤リストを作成する。

#### 6.2.4 電磁気応用部門

電磁気を応用した試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)渦電流探傷研究委員会

各種の渦電流探傷プローブの開発が行われ渦電流探傷技術の新展開が期待される。各種素材・構造物に対する最新の渦電流探傷技術に関する研究及び調査・検討を行う。

##### (2)電磁応用現象・解析評価研究委員会

数値解析技術が実用的になってきている現状であり、渦電流探傷ならびに磁気応用非破壊検査を科学的にかつ定量的に評価を行う。

#### 6.2.5 漏れ試験部門

漏れ試験検査に関する研究、調査及び普及を推進する。また、以下の研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)漏れ試験研究委員会

漏れ試験の新技术の導入とその確認及び検討、流体のリーク特性の調査、標準試験片と校正方法などについて研究調査する。漏れ標準試験片とその校正方法については、標準化も含めて検討する。

#### 6.2.6 応力・ひずみ測定部門

応力・ひずみ測定による試験検査法、材料評価法に関する研究及び関連技術の調査と普及を推進する。以下の各研究委員会で具体的な活動を行う。

##### (1)バイオメカニクス研究委員会

バイオメカニクスに基づいた生体機能や生体診断への非侵襲的計測技術の応用について研究や調査を行う。

##### (2)応力可視化研究委員会

実験応力・ひずみ解析に関する実験技術の向上および普及や材料強度評価との相互関係について研究や調査を行う。

#### 6.2.7 アコースティック・エミッション部門

アコースティック・エミッションの研究、調査及び普及を推進する。

#### 6.2.8 赤外線サーモグラフィ部門

赤外線サーモグラフィによる各種試験方法の研究、調査及び普及を推進する。また、赤外線サーモグラフィ試験に関連した規格の整備及び技術者認証事業を学術面から支援する。

#### 6.2.9 製造工程検査部門

製造工程検査部門は、非破壊検査画像処理特別研究委員会名を変更して、活動を新たにする。画像処理技術を核として、要素技術の応用による製造工程検査の自動化にかかる研究・調査を推進する。

#### 6.2.10 保守検査部門

保守検査に係わる各種非破壊検査方法とその関連技術の研究、調査及び普及を推進する。

#### 6.2.11 鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門

鉄筋コンクリート構造物に対する各種非破壊試験方法の研究、調査及び普及を推進する。また、鉄筋コンクリート及び関連分野の非破壊試験に関する国内文献の調査・整理を行う。

#### 6.2.12 新素材に関する非破壊試験部門

新素材の非破壊評価に関する研究、調査及び普及を推進する。また、材料評価に関連した計測技術調査を推進する。

### 6.3 研究会

#### 6.3.1 電界計測に基づく非破壊評価実用研究会

電界計測以外も含めた他の計測手法との融合による新たな非破壊評価技術の開発も視野に入れつつ、現場ニーズに対応した電界計測に基づく非破壊評価技術の発展・高度化を目的とし、かつ既存の電界計測手法の新たな対象への応用、および産業界への普及・実用を図っていく。

#### 6.3.2 非線形超音波による非破壊評価の高度化研究会

難度の高い非線形超音波の発生機構と実機適用性の検討をさらに深めながら、非線形超音波による非破壊検査・材料評価技術の高度化の可能性を探る。また、必要に応じて、関連研究や技術の講演会、文献の調査等も行ふ。

#### 6.3.3 超音波による非接触センシング・先進評価技術研究会

レーザー超音波やその他の非接触計測技術、先進的な欠陥検査・材料評価技術に関する幅広い話題提供・討論と研究現場等の視察による情報収集を行うとともに、当該分野の国内外の現状を的確に把握する。また、それらにより得られた知見を共有し、新たな研究展開と産業界への応用を推進する。

### 6.4 学術講演会

- (1) 春季講演大会を平成 25 年 6 月 3 日、4 日にアルカディア市ヶ谷で開催する予定である。
- (2) 秋季講演大会を平成 24 年 10 月～11 月頃に中国地方で開催する予定である。

### 6.5 シンポジウム等

- (1) 第 9 回放射線による非破壊評価シンポジウム  
・平成 26 年 1 月～2 月頃に東京で開催予定である。
- (2) 第 21 回超音波による非破壊評価シンポジウム  
・平成 26 年 1 月頃に東京で開催予定である。
- (3) 第 17 回表面探傷シンポジウム  
・平成 26 年 2 月～3 月頃に 2 日間、東京で開催予定である。
- (4) 第 45 回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム

・平成 26 年 1 月頃に東京で開催予定である。

- (5) 第 7 回赤外線サーモグラフィによる非破壊評価シンポジウム  
・平成 25 年 12 月の 1 日間、東京で開催予定である。
- (6) 第 12 回保守検査シンポジウム  
・平成 25 年 11 月頃に東京で開催予定である。
- (7) 第 15 回新素材及びその製品の非破壊評価シンポジウム  
・平成 26 年 3 月の 2 日間、東京で開催予定である。
- (8) 第 19 回アコースティック・エミッション総合コンファレンス  
・平成 25 年 12 月 5 日～6 日の 2 日間、大阪で開催予定である。

### 6.6 技術開発センター

実機 SCC や模擬 SCC について、本委員会に取りまとめた知見を整理する。本年度は、現有の溶接部に擬似 SCC を導入した試験体に加え、昨年購入した熱疲労 SCC 模擬試験体について、各種超音波法を中心に回送実験を実施し探傷データを採取する。探傷の有効性を検証するため、一部試料を切断観察し、一連の実験終了後、試験体を技術開発センターに置き、会員が利用できるよう運用を開始する。

### 6.7 国際学術委員会

- (1) 各国の非破壊検査関連学協会及びグループとの連携を密にし、積極的に情報を収集して、非破壊検査関連分野の動向を的確に把握する。
- (2) 友好協定を締結している各国の団体との相互交流を推進する。
- (3) 2013 年 10 月または 2014 年 3 月開催予定の ASNT 年次大会へ協会代表を必要に応じて派遣し、交流と情報収集を図る。
- (4) 2013 年 6 月に横浜で開催予定の LU2013 の開催及び準備活動を推進する。
- (5) 2013 年 11 月開催の ASNT 年次大会へ協会代表を必要に応じて派遣し、交流と情報収集を図る。
- (6) 2013 年 11 月にインドのムンバイで開催予定の第 14 回 APCNDT 会議へ協会代表を必要に応じて派遣し、交流と情報収集を図る。

### 6.8 支部の学術活動

各支部において、会員連携を基に、研究発表会等の活動を通じて、学術活動の推進及び情報発信を行う。

### 6.9 編集委員会

- (1) 機関誌 62 巻 4 号～63 巻 3 号を編集・発行する。
- (2) 機関誌の更なる充実を図るための検討を行う。  
特に各号毎に特集を組むに当たっては、協会での研究活動とそれに関連した最新技術を会員に伝えるため、学術の各部門や各研究会からの特集企画への参画を推進する。
- (3) 論文投稿者の便宜と論文審査の効率化を目的として電子投稿・審査システムの導入を実施する。また、それに付随して論文審査体制・過程の更なる改善を図る。
- (4) J-Stage による論文公開を推進する。
- (5) 英文共同刊行誌「Materials Transactions」への英文論文の投稿受付を継続するが併せて見直しも行う。
- (6) 機関誌による情報発信への協会ホームページの援用を推進する。

### 6.10 他学協会との連携及び協力

関係学協会との連携を密にし、必要に応じ、共同して研究活動を行うとともに、講演会等を共催・協賛・

後援する。

## 7. 教育活動

教育委員会の下で、次の活動を行う。

- (1) 改正 JIS によるシラバスに基づいた教育カリキュラムの見直しを行う。
- (2) 改正 JIS に基づく再認証講習会の検討を行う。
- (3) 講師、指導員の育成プログラムの検討を行う。
- (4) JIS Z 2305 の実技を対象とした講習会を開催する。
- (5) ボス供試体を対象とした講習会を開催する。
- (6) 参考書等の改訂及び教育関連書籍の見直しを行う。
- (7) 外部団体からの委託による研修会を実施する。
- (8) 教育用試験片・機器等の貸出業務を行う。
- (9) 各支部で技術研修のための競技会を開催し、NDI 技術者の技術習得自己研鑽を図る。
- (10) ISO/TR 25107 (訓練用シラバス) に係る関連会議がフランス等で開催が見込まれているので、この会議に代表者の派遣を予定している。

### 7. 1 非破壊試験技術講習会

教育訓練の国際整合性及び支部との連携を図りながら次の講習会を開催する。

- (1) 放射線透過試験 レベル 1・2・3 コース
- (2) 超音波探傷試験 レベル 1・2・3 コース
- (3) 磁粉探傷試験 レベル 1・2・3 コース
- (4) 浸透探傷試験 レベル 1・2・3 コース
- (5) 渦流探傷試験 レベル 1・2・3 コース
- (6) ひずみ測定 レベル 1・2・3 コース
- (7) 赤外線サーモグラフィ試験 レベル 1・2 コース
- (8) 漏れ試験 レベル 1・2 コース
- (9) レベル 3 基礎コース
- (10) 非破壊検査総合管理技術者コース

### 7. 2 国際教育専門委員会

- (1) アジア・太平洋地域からの要請により、各種事業の計画立案及びその運営について協力・支援する。
- (2) 資格試験及び教育訓練用の欠陥付き標準試験片の製作技術については、要請に応じて、試験片製作のためのワークショップに専門家派遣を行って協力していくと共に、試験片の製作、供給に関して、協力・支援する。
- (3) IAEA 主催などの各種ワークショップ及びセミナーに関しては、各国からの要請に応じて日本から専門家派遣を実施する。

## 8. 標準化活動

経済産業省、日本規格協会及び関係学協会と緊密に連携し、主として次の活動を行う。

### 8. 1 標準化委員会

- (1) 日本非破壊検査協会規格 (NDIS) を制定し、検査技術の標準化を図るとともに、その普及を推進する。
- (2) JIS の原案作成 (制定及び見直し) に積極的に協力し、その普及を推進する。また、関連する国際規格と JIS の整合化を推進する。
- (3) JIS・NDIS 等の規格普及のためのセミナー・講演会を検討し実施する。
- (4) ISO 委員会の諸活動に積極的に協力する。
- (5) 検査技術に係る標準化の在り方や方向性を調査・検討する。

### 8. 2 ISO 委員会

- (1) ISO/TC 135 関連の国内審議団体として、国際規格案の審議に積極的に参加し、日本の意見を反映していく。
- (2) 各 SC/WG 等の国際会議へ代表者を派遣する。

APCNDT 時にインドで開催の SC8 及びシラバスに係る TR 関連会議がフランス等での開催が見込まれており、これらの会議への日本代表者派遣を予定している。

- (3) 非破壊試験に関連のある国際対応において ISO/TC 44 (溶接)、TC 17 (鋼) 及び TC 79/SC 11 (チタン) 等からの ISO 規格検討依頼等に協力をしていく。
- (4) 標準化委員会との連携を密にし、ISO 規格と JIS 及び NDIS 規格との調整等に努める。

### 8. 3 ISO/TC 135 幹事国業務

- (1) TC 135 は CEN (欧州標準化委員会) と合同ワーキンググループ (WG) を設立し 2009 年から「NDT 技術者の資格と認証」を定めた ISO 規格 (ISO 9712) と CEN 規格 (EN 473) との完全整合化を進めてきた。その成果として 2012 年 6 月に CEN と ISO 共通の認証規格として EN ISO 9712 が発行された。この共通規格を名実共に共通なものとするため同規格に引用された関連規格等についても整合を進める。なお、長年にわたって TC 135 管轄下にあった ISO/TR 25107 (訓練用シラバス) について改訂原案を SC 7 (技量認定) WG 9 に提出した。
- (2) EN ISO 9712 の初回の定期見直し (3~5 年後) に向けて CEN/TC 138 との意見交換を積極的に行う。
- (3) 次回 H26 年 10 月 ISO/TC 135 総会 (於: チェコ、プラハ) 開催に向けた準備を開始する。TC 運営上の課題を抽出し、総会での協議に必要な問題提起、事前協議及び資料作成等を行う。
- (4) ASME は第三者認証制度として ISO 9712 を導入する動きがある。ASME に協力して、その実現を図る。
- (5) ISO/TC 135 幹事国として TC 135 の SC 幹事国、および当協会も会員である ICNDT を始めとするリエゾン先機関と緊密に連携する。尚、リエゾン会議、並びに TC 135 の SC 及び WG 会議には TC 135 代表ができるだけ参加し、関連情報収集に努めるとともに各国の現状を調査し、メンバーの意見を聴取して TC の運営に活かす。(CEN/TC 138 総会等) SC 9 が AE 法による「非破壊試験法」を分担している一方、TC 108 「機械の振動及び衝撃」でも AE 法を用いている (同 TC/SC 5 「機械の状態監視と診断」)。同 SC とのリエゾン関係を通じ双方作作文書の技術的内容に齟齬が生じないように意見交換を進める。
- (6) 非破壊検査の規格開発の担い手として検査需要が旺盛な新興国の盛り立てが TC 135 の活性化にも寄与するものとの認識のもと新興国との連携強化をはかっていく。

### 8. 4 ISO/TC 135/SC 6 幹事国業務

- (1) ISO/TC 135/SC 6 幹事国として、加盟国及びリエゾン先の他 TC と連携して漏れ試験方法関連規格の開発を推進する。
- (2) リエゾン先の CEN の該当 WG 廃止に伴う ISO/TC 135/SC 6 への影響の極少化 (活動停滞の阻止と活性化) を CEN と協議する。特に新興国の活動への参画を促す。
- (3) 国際規格としての漏れ試験に関する用語の制定とヘリウム漏れ試験の規格化を進める。

## 9. 認証活動

### 9. 1 認証運営委員会

- (1) JIS Z 2305:2001「非破壊試験－技術者の資格及び認証」に基づき、非破壊試験技術者の資格の審査、認証、資格証明書の発行及び登録等の認証事業を実施し、併せて同資格の普及を図る。  
また、NDIS 0604:2009「赤外線サーモグラフィ試験－技術者の資格及び認証」及びNDIS 0605「非破壊試験－漏れ試験技術者の資格及び認証」に基づく認証事業を実施し、資格制度の普及を図る。
- (2) 資格試験問題を統計分析等の手法を用いて検討を行う。
- (3) BOK (Body of Knowledge: 必要な知識) に整合した資格試験問題の整備を図る。
- (4) 機関誌「非破壊検査」及びホームページへ認証に関する情報を定期的に掲載する。
- (5) 日本エルピーガスプラント協会との相互認証を実施する。
- (6) 2013年5月に発行予定のJIS Z 2305:2013「非破壊試験技術者の資格及び認証」に基づく資格認証制度を2014年秋以降早期に実施するために制度の具体化検討を進める。
- (7) 改正JIS Z 2305:2013の実施に向けて、東京地区及び大阪地区の試験センターの検討を行い、実技試験会場の拡充を図る。

### 9. 2 非破壊検査総合管理技術者認証委員会

NDIS 0602:2003「非破壊検査総合管理技術者の認証」に基づき、技術者の認証を実施する。

### 9. 3 PD認証運営委員会

PD (Performance Demonstration) 認証制度に関してNDIS 0603:2005「超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証」に基づき技術者の認証を実施する。

### 9. 4 国際認証関連

- (1) ASNT-ACCP-PCP による ACCP 資格取得制度のサブリメント試験を実施する。
- (2) EU の PED (Pressure Equipment Directive) に関わる BINDT との PED NDT 承認制度における試験を実施する。
- (3) カナダ天然資源省鉱物エネルギー技術カナダセンター (CANMET) との非破壊試験技術者の相互認証を推進する。

## 10. 出版・試験片活動

関連委員会と連携し、次の活動を行う。

### 10. 1 出版委員会

- (1) 刊行している出版物の改訂と新版の刊行
- (2) 新出版物の検討 (入門書の頒布など)
- (3) 原稿の電子化の推進
- (4) BOK (Body of Knowledge: 必要な一連の知識) 対応書籍の発行の検討
- (5) 販売促進に関する検討
- (6) 参考書の英語版発行の検討
- (7) 著作権についての検討

#### 10. 1. 1 刊行物

以下のような新版発行予定、刊行物の改訂予定及び刊行物の増刷・頒布、また委託書籍の仕入販売を引き続き行う。

- (1) 非破壊検査技術シリーズ、その他

- (a) 改訂版予定 (書籍名は仮称) 関連規格の改正と技術

の進捗に対応した改訂を行う。

- 1) エックス線作業主任者試験  
公表問題の解答と解説 2013
  - 2) アコースティック・エミッションによる動機械の診断
  - 3) 超音波探傷入門 (パソコンによる実技演習) DL 版
  - 4) 超音波探傷試験 I
  - 5) 超音波探傷試験 III
  - 6) 超音波探傷試験 I 問題集
  - 7) 超音波厚さ測定 I 問題集
  - 8) 放射線透過試験問題集
  - 9) 赤外線サーモグラフィ試験 II 問題集
  - 10) 鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験による欠陥指示模様の参考写真集
  - 11) エックス線作業主任者試験公表問題の解答と解説
  - 12) アコースティック・エミッション試験 I (英語版)
- (b) 増刷・頒布
    - 1) 非破壊試験技術総論
    - 2) 非破壊試験技術者のための金属材料入門
    - 3) 非破壊試験技術者のための金属材料概論
    - 4) レベル 3 技術者のための材料科学及び認証システムに関する問題集
    - 5) 放射線透過試験 I
    - 6) 放射線透過試験 II
    - 7) 放射線透過試験 III
    - 8) 放射線透過試験問題集
    - 9) 放射線透過試験実験法
    - 10) 放射線透過試験技術に関する写真及び解説
    - 11) 放射線安全取扱い
    - 12) エックス線作業主任者試験  
公表問題の解答と解説
    - 13) エックス線作業主任者用テキスト
    - 14) 超音波探傷試験 I
    - 15) 超音波探傷試験 II
    - 16) 超音波探傷試験 III
    - 17) 超音波厚さ測定 I
    - 18) 超音波探傷試験問題集
    - 19) 超音波探傷試験実技参考書  
「デジタル超音波探傷器」編
    - 20) 各種成品及び溶接構造物の超音波探傷試験
    - 21) 鉄骨溶接部の超音波探傷試験実施マニュアル
    - 22) 磁粉探傷試験 I
    - 23) 磁粉探傷試験 II
    - 24) 磁粉探傷試験 III
    - 25) 磁粉探傷試験問題集
    - 26) 磁粉探傷試験実技参考書
    - 27) 鉄鋼材料の磁粉及び浸透探傷試験による欠陥指示模様の参考写真集
    - 28) 浸透探傷試験 I
    - 29) 浸透探傷試験 II
    - 30) 浸透探傷試験 III
    - 31) 浸透探傷試験問題集
    - 32) 浸透探傷試験実技参考書
    - 33) 渦電流探傷試験 I
    - 34) 渦流探傷試験 II
    - 35) 渦流探傷試験 III
    - 36) 渦流探傷試験問題集
    - 37) 渦電流探傷試験実技参考書

- 38) ひずみ測定 I
- 39) ひずみ測定 II
- 40) ひずみ測定 III
- 41) ひずみ測定問題集
- 42) アコースティック・エミッション試験 I
- 43) アコースティック・エミッション試験 II
- 44) 中性子ラジオグラフィ写真集
- 45) 非破壊評価工学
- 46) イラストで学ぶ非破壊試験入門
- 47) 叢書「非破壊検査の最前線」
- 48) 非破壊検査やさしい解説 Vol. 1
- 49) 赤外線サーモグラフィによる設備診断  
・非破壊評価ハンドブック
- 50) 赤外線サーモグラフィ試験 I
- 51) 赤外線サーモグラフィ試験 II
- 53) 赤外線サーモグラフィ試験 I 問題集
- 54) 漏れ試験 I
- 55) 漏れ試験 II
- 56) 漏れ試験 I 問題集
- 57) 漏れ試験 II 問題集
- 58) 漏れ試験実技参考書

(2) 学術講演大会講演概要集

- 1) 平成 24 年度春季大会講演概要集
- 2) 平成 24 年度秋季大会講演概要集
- 3) 平成 23 年度春季大会講演概要集
- 4) 平成 23 年度秋季大会講演概要集
- 5) 平成 22 年度春季大会講演概要集
- 6) 平成 22 年度秋季大会講演概要集

(3) 日本非破壊検査協会規格 (NDIS)

- (4) JIS H ハンドブック「非破壊検査」
- (5) 詳解 非破壊検査ガイドブック
- (6) JIS Z 2305:2001「非破壊試験  
－技術者の資格及び認証」
- (7) DVD「非破壊検査入門」

**10. 2 試験片委員会**

- (1) 必要に応じて新規試験片の頒布検討
- (2) 頒布品カタログの作成検討
- (3) 信頼性証明書に関する検討
- (4) 販売促進に関する検討

10. 2. 1 頒布品

次の試験片(又はゲージ)などの頒布を行うとともに必要に応じて新たに製作し頒布する。

- (1) 放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ
  - 1) 鋼溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS Z 3104)
  - 2) アルミニウム溶接継手放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS Z 3105)
  - 3) 鋳鋼品放射線透過写真きずの像の分類用ゲージ (準拠規格 JIS G 0581)
- (2) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)
  - 1) G 形 S T B
  - 2) N 1 形 S T B
  - 3) A 1 形 S T B
  - 4) A 2 形系 S T B
  - 5) A 3 形系 S T B
- (3) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)

- 1) R B - T
- (4) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320)
  - 1) A 1 形標準試験片
  - 2) A 2 形標準試験片
  - 3) C 1 形標準試験片
- (5) 浸透探傷試験教育用アルミニウム焼割れ試験片
- (6) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)
  - 1) B L - 3 0 / 1 0 0
- (7) 浸透探傷試験及び磁粉探傷試験の目視観察条件の目視基準ゲージ(準拠規格 JIS Z 2340)
  - 1) 染色(赤色)浸透探傷試験用
  - 2) 黒色磁粉探傷試験用
  - 3) 蛍光浸透探傷試験・蛍光磁粉探傷試験用
- 10. 2. 2 信頼性証明書の発行
  - (1) 超音波探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2345)
  - (2) 超音波厚さ計用対比試験片 (準拠規格 JIS Z 2355)
  - (3) 磁粉探傷試験用標準試験片 (準拠規格 JIS Z 2320)
  - (4) 発泡液試験片 (準拠規格 JIS Z 2329)

**1 1. 広報活動**

- (1) 平成 25 年 5 月 4～5 日に「非破壊検査啓蒙・普及イベント-第 2 回ヒハカイ星からやってきたノンディ-」を開催する。また、イメージキャラクターの「ノンディ」等を幅広く広報媒体に活用し、「非破壊検査」の普及と存在意義の浸透を図る。
- (2) 「次世代のための非破壊検査セミナー」への協力・支援行う。
- (3) ホームページの内容について更なる充実化を図る。
- (4) 電子メールを活用した情報発信(メールマガジン)サービスの利用者登録数を増やすとともに、多くの会員に協会の最新情報を速やかに発信することを促進する。
- (5) 公開文献(会員の特典としての文献公開)を随時、web 上で公開することに努める。
- (6) 各種マスメディアへの PR 活動を積極的に行う。
- (7) 機関誌編集委員会及び認証広報委員会との情報の相互連絡体制をより強化し、会員の要望に沿った情報の公開を行う。
- (8) 各種展示会への出席を積極的に行う。

**1 2. 名誉会員の推薦**

名誉会員の選考及び推薦を行う。

**1 3. 表彰**

- 13. 1 日本非破壊検査協会賞規則に基づく協会賞の選考及び表彰を行う。
- 13. 2 日本非破壊検査協会業績賞規則に基づく業績賞の選考及び表彰を行う。
- 13. 3 論文賞規則に基づく論文賞の選考及び表彰を行う。
- 13. 4 奨励賞規則に基づく奨励賞の選考及び表彰を行う。
- 13. 5 新進賞規則に基づく新進賞の選考及び表彰を行う。
- 13. 6 日本非破壊検査協会技術表彰規則に基づく石井賞の選考及び表彰を行う。

**1 4. 研究奨励・研究助成**

- 14. 1 研究奨励金制度規則に基づく奨励金の給付を行う。
- 14. 2 研究助成事業規則に基づく助成金の給付を行う。